

発行

京都教育大学同窓会

発行責任者

会長 高向 健次

京都教育大学 同窓会だより

事務局

〒612-8522

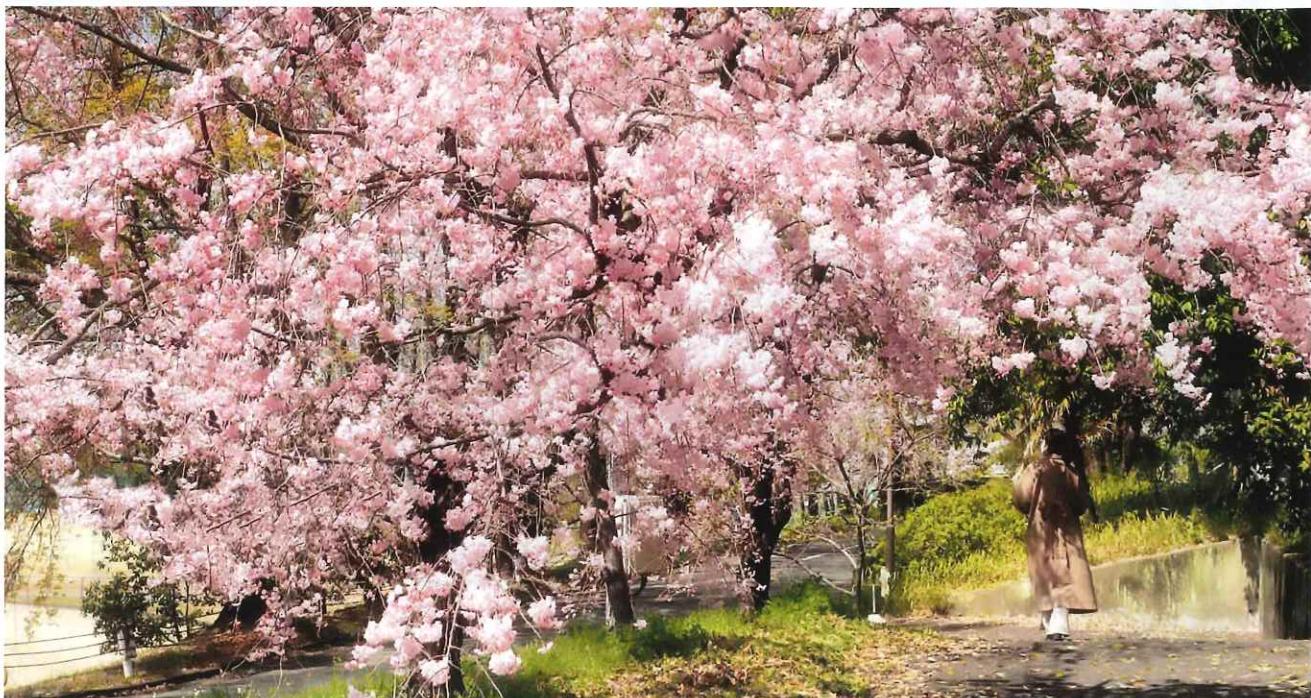
京都市伏見区深草藤森町1

京都教育大学内

TEL FAX 075-644-8353

メールアドレス

dosokai@kyoto-u.ac.jp



三年ぶりの「あつたかトーキショッブ」

京都教育大学同窓会副会長 増山亨



同窓会
の取組に
ご理解・
ご支援を

賜りありがとうございます。新型コロナの感染症法上の位置付けが、今春、二類から五類に緩和されようとしています。マスクの着用についても、学校教育の現場では、新学期となる四月一日から着用を求めることがあります。

さて、同窓会本部におきましては、昨年度、コロナ感染対策の徹底をはかりながら、定期総会をはじめ、同窓会事業を進めて参りました。その中の一つ、令和五年二月一日(水)、三年ぶりに「あつたかトーキショッブ」を開催いたしました。

「あつたかトーキショッブ」は、在学生が、先輩で教職に就き活躍されている方や企業に勤め活躍されている方との交流を通して、将来を考える一機会になるよう実施しております。

今回は、京都府・京都市の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に勤務している五人の管理職の先生からお話を伺うことができました。参加した学生は二四名で、事後のアンケートでは、「先生になりたいという気持ちがより強くなつた」という気持ちがより強くなつた。

た」「教員採用試験での心構えなどを聞くことが出来た」「将来のことなどの不安に対し、親身になつて聞いていただき、励ましの言葉をいただいたので、とてもためになつた」などと答えてくれました。同窓生と在校生をつなぐ取組として今後も継続していきたいと考えております。

「同窓会の活性化を図る」という課題のもと、私たち会員一人一人の同窓会活動が何よりも大切なことと言えます。このことが京都教育大学のさらなる発展と次代を担う人材育成につながるものと考えております。引き続きご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

今号の内容

- ⑯ ⑮ ⑭ ⑬ ⑫ ⑪ ⑩ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ② ①
- ⑨ ③

- 副会長挨拶
- 教育大の地元を歩く
- 学び舎
- 紫郷体育会の活動
- キャンパスライフ
- HPの紹介
- 創るアートフォーラムの活動
- 頑張ってます
- 写真展
- いいとも講演会
- 特別寄稿
- 同窓会行事・編集後記

明智光秀の胸塚は、新しくなった小栗栖街道の脇、ぶどうの農家産直販売所の隣にあります。

明智光秀の胸塚は、新しくなった小栗栖街道の脇、ぶどうの農家産直販売所の隣にあります。

明智光秀の首は、介錯をした家来によつて隠されたとされています。そして胸体の方は、この辺りで埋葬されたと伝えられており、現在その場所と推定されるところに石碑が建てられています。

主君の信長を討つたことで、裏切り者のイメージで見られること多かった明智光秀でしたが、軍略に長け、教養が高



明智光秀胸塚

せますが、三〇〇メートルほど行つた所で落馬します。最後を悟つた光秀は、家臣に介錯をさせ自害します。勝龍寺城から坂本城まで半分の道のりの所まで来ての無念。光秀の目には、暗闇の向こうに坂本城が映つていたことでしょう。

く愛妻家であったとも伝わっています。何年か前のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」でも、理想の国づくりを目指す武将として描かれていました。近年、見直しが進む光秀像ですが、その終焉の地での扱いは、いまだに寂しいものがあります。

■ 勸修寺



勸修寺

小栗栖街道つながりで、今回は、山科区になりますが、勸修寺まで足を伸ばしてみましょう。

岡校長先生は、平成三年（一九九一年）度に発達障害学科を卒業されました。高校の時から柔道をされていた岡先生は、大学でも柔道部に入り、武道場で日々汗を流されたそうです。今は、京都市学童柔道研究会の会長として、子どもたちに柔道の楽しさを広めておられます。授業では、精神科医でもあった友久先生のゼミで学ばれました。子どもたちとの関わりを大切にし、一人一人をよく見て指導・支援を考えるという教えは、今につながっていることです。

庭園は、「氷室の池」を中心に、周囲の山を借景とし、四季折々の美しさを見せてくれます。平安時代には、この池に張る氷を宮中に献上し、その氷の厚さに

よつて、その年の五穀豊凶を占つたと言われています。

書院の前庭にある灯籠は、「勸修寺型灯籠」と呼ばれ、黄門様でおなじみの戸光圀公が寄進されたものだそうです。また、この灯籠を覆うように生い茂つてるのは、「ハイビヤクシン」というヒノキ科の常緑灌木で、樹齢は八〇〇年ともいわれる名木です。

□ 小栗栖宮山小学校

明智敷を目指して本経寺に行く道に、小栗栖八幡宮があります。ここは、明智光秀を襲った飯田一族の小栗栖城があつた場所で、一部石垣も残っています。この小栗栖八幡宮の東隣にあるのが、京都市立小栗栖宮山小学校です。今回は、小栗栖宮山小学校の岡博士校長先生にお話を伺つてきました。

岡校長先生は、平成三年（一九九一年）度に発達障害学科を卒業されました。高校の時から柔道をされていた岡先生は、大学でも柔道部に入り、武道場で日々汗を流されたそうです。今は、京都市学童柔道研究会の会長として、子どもたちに柔道の楽しさを広めておられます。授業では、精神科医でもあった友久先生のゼミで学ばれました。子どもたちとの関わりを大切にし、一人一人をよく見て指導・支援を考えるという教えは、今につながっていることです。

そんな小栗栖宮山小学校ですが、令和七年（二〇二五年）に、近隣の小中学校との統合が決まつていています。すでに小栗栖地域では、先に閉校になつた元小栗栖小学校跡地に新しい学校の校舎建設が始まっています。二年後の統合に向け、学校・保護者・地域が一体となつて、教育大学の同窓がおられました。



小栗栖宮山小学校

は、学校教育目標を「自ら学び、ともに自己実現をめざす宮山の子」とし、「コツコツ」努力を続ける子、「ニコニコ」笑顔が拍手がおこれる子、「パチパチ」すてきな子、そんな子ども像を念頭に、日々取組を続けておられます。

本部だより

第二三回写真展

第二三回写真展を令和四年一一月一日(金)から一四日(月)までの四日間、前々回まで開催しておりました大学図書館の企画展示室にて開催いたしました。

作品は昨年度より少し増えて二一名の出品者から四二の作品をお寄せいただきました。また今年度初出品になる方も三名を数えました。新型コロナは一向に収束する気配はありませんが、感染対策を講じたうえで藤陵祭の会期中に実施しました。昨年度は藤陵祭中止で会期も三日間と短縮されたこともあり鑑賞者は四九名でありましたが、九三名で倍増を図ることができました。

最終日には初期より講評をいただいている日本国際写真連盟の会長である藤井晶夫先生をお招きして「勉強会(写真講座)」を行いました。

紙面では出品者の中からお二方の作品を藤井先生の講評を交えて紹介します。

ました。先生は講評に先立ち、すべての出品作品が作者の感性に基づいて撮影されたものであり、その感性が作品の中に表現された素晴らしいものだとおっしゃりました。そして、作品の一つひとつに丁寧かつ適切な講評をいただきました。

した。最後に、「出品者の皆さんには基本的なことは全部マスターされているので、自信をもつて作品作りに励んでください」というお言葉と、常にあちこちの風景を見て自分の感性を磨いておくことの大切さについても助言をいただきました。また、アンケートの中にも「毎年の素晴らしい作品を楽しみにしている。」「卒業生が卒業後何十年も同窓会に関わりを持つていることに感心する。」などのお言葉がありました。



「雨あがり」

千葉 静子

【藤井先生評】

これは美山のヒガンバナだと思いますが、花弁についた雨粒をよく見てあげてほしいと思います。雨の上がった後雨粒がついている花が生き生きとしています。秋が深まり心持ち寒くなる時期に、このような風景を撮影するのは非常に楽しいと思います。



「家族・明日に向かって跳べ!!」

菊地 祥夫

【藤井先生評】

太陽を逆光にして家族がジャンプしたところをうまくとらえており、動きのある作品ですから、見ている人の心もふわりと浮き立つような作品です。

本部だより

●いいとも講演会●

音楽科准教授 田邊 織恵 先生

員で歌いました。その一部を紹介します。

・受講者の感想(アンケートより抜粋)
言葉や歌詞を大事にする事、情景を想像しながら歌う事などたくさんのこと学ぶことができた。

秋を唄う～心に響く歌とは～

「まつかな秋」・・子どもたちが話しかけている微笑ましい風景が浮かんでくる。繰り返し出てくる「まつかだな」の一つずつに個性があり、それぞれの声の出し方で情景が感じられる。「つ」の次の音「か」に意識をもつとよい。四拍子は穏やかさ、ヘ長調はやわらかさを表している。鼻濁音に気をつける。

【講師紹介】 大阪音楽大学声楽学科卒業、同大学院オペラ研究室修了。安田生命クリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーションからの奨学金を得て、イタリアへ五年間留学。国立パルマ・A・ボーリト音楽院卒業、トスカニーニ財団オペラアカデミー修了。高槻音楽コンクール第一位、ベザアーニヤ国際声楽コンクール第二位、ジャンニ・ボッジ奨学金コンクール第一位など国内外でコンクールに多数入賞。イタリアではモーツアルト作曲『フィガロの結婚』でデビュー後、各地の歌劇場に出演。帰国後はモーツアルトやプッチーニ、現代から日本のオペラ等に多数出演。また宗教曲のソプラノソロやNHK-FM「名曲リサイタル」「リサイタルノヴァ」等各種リサイタルや日本の歌のコンサートでも幅広く活躍。二〇一三年より京都教育大学音楽科に勤務。その他大阪音楽大学非常勤講師。高槻市少年少女合唱団ヴァオイストレーナー、絵本オペラカンパニー「おペろん」メンバーとしても活躍。

「秋を唄う」というテーマに合わせたように構内の木々が美しく色づき、学生・教諭・同窓生など三四名が参加して講演会が開かれました。秋の歌を深掘りし、どのように歌えば心に響くのか、実践を通して教えて頂きました。

◆「歌詞を読む」・・歌詞を縦書きにして詩として描き、作詞者の工夫点に気付く。そして、歌詞の意味を理解し自分の言葉で説明できるようになります。頭の中で描いた景色を思い浮

かべながら美しい日本語で朗読する（子音、母音などに注意して）

◆「楽譜を読む」・・作曲者の描いた音・世界を読み解いていく。旋律の音型・音程・音の長さ・休符・強弱などをなぞるのではなく、なぜこのようになっているのかを見つけていく。そこに楽譜を読む楽しさがある。表現・理由を決め、表現したい音色・強弱・歌詞の工夫を考える。そして情景を想像し目の前にその絵が広がっているように歌い始める。

まず、先生が歌う時に心がけておられる三つのことをお話し下さいました。

◆「歌詞を読む」・・歌詞を縦書きにして詩として描き、作詞者の工夫点に気付く。そして、歌詞の意味を理解し自分の言葉で説明できるようになります。頭の中で描いた景色を思い浮

が自分の子どもの頃の事を唄った歌。背中に負われて見た景色や「お里のたより」は露風が別れて暮らしていく母からの「たより」なのは。と想像しながら歌う。四番の「つ」を意識すると豊かな表現になる。

「赤とんぼ」・・作詞者の三木露風が自分の子どもの頃の事を唄った歌。背中に負われて見た景色や「お里のたより」は露風が別れて暮らしていく母からの「たより」なのは。と想像しながら歌う。四番の「つ」を意識すると豊かな表現になる。

・日本の歌を大事に歌い継いでいくたいという想いが強まつた。
・たくさんの方々と声を合わせて歌つたのは久しぶりでとても楽しかった。
・歌詞の意味を考えながら歌うと表現が大きく変わることを実感した。
・自校で「赤とんぼ」を教えており、より深い内容で授業ができそうだ。
子どもたちへの指導に生かしていきたい。



令和5年度定期総会ご案内

＜午前10時から受付開始＞

とき 令和5年7月8日(土)
 ところ ホテルオークラ京都(河原町御池)
 4階 晴雲の間 ☎ (075) 211-5111
 交通 地下鉄東西線の「市役所前駅」下車
 ③番出口からエスカレーターで直通
 会費 9,000円
 (受付でいただきます)



内容 10時00分～ 受付
 11時00分 総会開会
 12時30分～15時 謹親会

出席申し込み等は事務局へ

TEL・FAX (075) 644-8353
 Eメール dosokai@kyoko-u.ac.jp

◆申し込み締め切り

令和5年6月21日(水)まで

別紙申し込み用紙に必要事項を記入し、事務局まで出して下さい。

・同期会、学科、支部、ゼミ、クラブ、職域等グループ、または個人でお申し込みいただけます。

11時開会です

第24回写真展のご案内

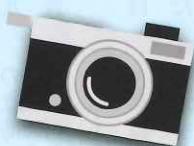
開催日時：令和5年11月10日（金）～13日（月）10時～16時（13日は13時まで）

教育大学の学園祭（藤陵祭）の実施日に合わせて企画（予定）

開催場所：京都教育大学附属図書館 1階企画展示室（予定）

作品募集要項

- ①作品出品資格 京教大関係者・写友（一般写真愛好家）
- ②出品作品 一人2点以内（写題は自由）＊撮影年月日と天地が判るように裏に表示する四つ切り（ワイド版にしないこと）またはA4版、額は当方で用意します。
- ③申し込みと問い合わせ先
 - ・出展の申し込みは、10月20日（金）までに、申し込み葉書をお願いします。
 - ・申し込み葉書が必要な方は、同窓会事務局までご連絡ください。
 - ・京都教育大学同窓会事務局
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel・Fax 075-644-8353
- ④勉強会 11月13日（月）13時～15時 e-mail dosokai@kyoko-u.ac.jp
 - ・場所 写真展会場 講師：藤井晶夫氏（日本国際写真連盟会長）予定
- ⑤作品の送付及び返却
 - ・送付日 11月3日（金）までに、同窓会事務局に持参、郵送、宅配をお願いします。
 - ・作品を直接事務局へ持参の場合は、あらかじめ事務局へお電話をください。
 - ・返却日 11月13日（月）勉強会終了後お持ち帰りいただき、後日宅配便にて返送します。



令和5年度「いいとも講演会」



演題 見えない「こころ」をとらえる心理学

講師：京都教育大学教育学科講師 赤松 大輔先生

令和5年11月11日(土) 13:30～

谷中走
東井早朋徳
苗子彦

飯深山尾本
一清早輝美苗

『編集委員』
 を大切にしたいだけだと、いたいたい原稿も紙面の都合上、やむを得ず内容を削らせていました。ただいたところがあります。また、皆さん快く引き受けたところが、皆さんに原稿を依頼するのではなく、この「同窓会だより」も完成することができました。感謝申し上げます。

「同窓会だより」は皆さんをつなぐ大切な手段です。そのためには、いよいよの方に原稿を依頼するのです。現役の活躍が今まで以上に取り上げられていくと思われたのではないでしょうか。そして、現職の方はもちらん、すでに退職された方までが多様な活動をされていることを感じ取つていただけたのではないでしょうか。

今回の「同窓会だより」は皆さんの理解を深めることですが、ねらいの一つです。この「同窓会だより」も会員相互の理解を深めることができます。

編集後記